

## 小川英雄・山本由美子『オリエント世界の発展』を読んで

奥 名菜葉

この本は2人の著者によるもので、手堅い内容だ。小川英雄さんがメソポタミアやシリア、山本由美子さんがペルシャを担当していて、小川さんは少し硬い印象で、発掘された遺跡を紹介している。それに対して山本さんは、アケメネス朝・パルティア・ササン朝とイランに起こったそれぞれの王朝を解説していて、とらえ方がとても面白い。そして、この本の特徴は写真や考古学的資料が多く、とても本を見る者としては読みやすい本となっている。とても深く掘り下げすぎでならず、だからといってとても浅く説明をされているわけでもない。そんなところが頭にも入ってきやすく、分かりやすいと感じた理由だろう。

メソポタミア視点だと、侵入民や侵略民の発生地印象しかないイラン高原や、アナトリアの歴史が淡々と書かれている。流れが分かりやすい書き方だった。

著者の主張は、ササン朝がアケメネス朝を継いだと言っているけれど、実際は、パルティアもこの系譜からそれほど離れているわけではない国家なので、連続して見るべきだ、ということだ。

残念な部分を挙げるとすれば、この本の内容が、歴史書のため、仕方のないことだとは思っているのだが、「出来事」を中心として書いているために、「ストーリー性」というものがあまり無いということだ。だが、逆に物足りないと感じたからもっとこの時代や背景を知りたいという気持ちにさせてくれる、良い本だと思う。

私にとって、山本さんの章が物事の説明を適切に書いており、整理をされているため、とても見やすく、頭の中にスラスラと入り、本当に分かりやすいと感じた。

中学ではあまり習うことのないオリエント世界だけれど、この本を通して知ることができて嬉しかった。